

## 「吉野川市学校再編計画」について意見募集に対する結果

### 1. 募集結果

募集期間	平成26年2月5日(水)～平成26年3月6日(木)		
意見等提出者数	10人		
提出件数 (提出方法内訳)	20件		
	郵便	FAX	E-mail 直接持ち込み
意見等の反映状況	A 意見等を計画等に反映するもの	1件	
	B 意見等が既に反映されているもの	2件	
	C 意見等を今後の参考とするもの	16件	
	D 意見等を反映する見込みのないもの	1件	

※提出いただきましたご意見等については、今後の参考意見とさせていただきます。

### 2. 意見等の分類

項 目	件 数
「吉野川市学校再編計画」に関する意見	20件

### 3. 提出された意見等と吉野川市の考え方

「吉野川市学校再編計画」に関する意見等と吉野川市の考え

NO	意見等の概要	吉野川市の考え方	反映
1	○「教育に力を入れた特色のある学校作り」を目指し、上浦・森山・牛島小学校3校と鴨島東中学校1校との「小中一貫校」の統合案を提案する。	○中1ギャップ(※)をなくす意味では、小学生にとって非常にメリットがあると思いますが、中学校において単学級が解消されないのであれば、教育環境の観点から課題もあると考えています。今後、他市の多様な取組を調査するなど、効果と課題を検証したいと考えています。 ※中1ギャップとは、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校等の問題行動につながっていく状態を言います。	C
2	○この取り組みは、誰が考えても難しい。そこで、行政だけでなく住民の知恵を引き出し少子化の教育対策を図る上でも、継続的な課題として話し合わせ改善が図られる仕組みが必要。	○学校再編の必要性につきましては、今後も引き続き説明の機会を持ち、ご意見をお聞きする必要があると考えています。また、再編に着手する際には「学校再編準備委員会」を設置して、PTAや地域住民、学校関係者の皆様とともに検討したいと考えています。	C

3	<p>○学校再編は早期実現を強く望むが、何故、複式学級が実現化するまで再編計画が実現できなかったのか。再編計画実施までの間、複式学級を回避できないか、市に強く希望する。</p>	<p>○平成26年度から、川田中小学校と川田西小学校は教頭先生が学級を担任することによって、複式化を回避しています。また、種野小学校では教頭先生が学級を担任し、更に市の独自加配教員を2人配置して複式学級支援を行っています。</p>	B
4	<p>○複式学級解消のために教員を加配するのは行政の仕事。また、学級編制基準の見直しを求めていくべき。</p>	<p>○現在の制度上、本市が独自に雇用した教員は学級を担任することができません。(No3の種野小学校の例のように複式学級に加配して支援を行うことはできません。)県教委に対しては、複式学級解消のための加配を要望しています。また、学級編制基準について徳島県は独自に国よりも少人数の基準を導入していますし、文部科学省は「平成27年度から公立小中学校の教職員が少子化等で過度に減らないよう、学級数に応じて決まる基礎定数を増やす方針を固めた」との報道もあり、国の動向も注視したいと考えています。</p>	C
5	<p>○子どもの教育(学力)の観点から生徒数はどうであれ中学校は各教科免許を持った教員を配置し、小学校も専科教員の指導が受けられるようにするべき。</p>	<p>○教員の配置数は、学級数によって決まります。免許外の授業を解消し、専科教員を配置するためにも、一定以上の学級数が必要です。そのための方策の一つが学校再編であると考えています。</p>	A
6	<p>○住民の声を無視する再編計画には反対。鴨島町においては再編は必要としない。再編についてPTAのアンケートだけでも取るべき。</p>	<p>○住民の声を聞き取るために、説明会を開催しています。学校再編につきましては、保護者のご意見を最も尊重すべきと考えていますので、PTA総会などの機会を活用して説明しているところです。</p>	C
7	<p>○一番最初に明らかになったのは徳新を通じてであり、現場の教職員にもPTA関係者にも何の前触れもなく、決定であるかのような発表の仕方に驚いた。住民無視の一方的な方法は絶対取らないようお願いする。</p>	<p>○答申を取りまとめた学校再編計画策定委員会の資料と会議録はホームページに掲載し、各支所にも閲覧用に配備しました。また、広報誌にも策定委員会の内容を掲載するなど、情報提供に努めてまいりました。「計画素案」につきましては、徳島新聞の報道の前にホームページへの掲載や学校長など関係者へご報告しています。</p>	C
8	<p>○学校再編に関して、住民に知らされる情報が少ない。「学校再編計画策定委員会」の「答申」の発表も突然のことであった。ホームページには情報は掲載されていたが、知らない人がほとんどでなかったらどうか。今後はもっと頻繁に情報を発信してほしい。</p>	<p>○情報発信につきましては、ホームページや広報誌などの媒体を更に積極的に活用していきます。</p>	C

9	<p>○町づくりのビジョンとともに学校再編が必要か否か考えるべき。</p>	<p>○吉野川市のまちづくりのビジョンとして「総合計画」があります。この中で「将来を担う子どもたちに、より望ましい教育環境を整えるため、中・長期的な展望に立ち、小規模化している小・中学校の適正規模・適正配置に配慮しつつ、再編について具体的な内容を検討します。」と明記しています。</p>	B
10	<p>○美郷地区に学校がなくなれば、過疎は進む。学校の存続と町の発展は大きくつながると考える。 ○学校が無ければ都会へ出た若い人たちも帰ってはこないということも聞く。ますます人口は減っていくのではないだろうか。 ○学校をなくすことは地域の崩壊につながり、将来に禍根を残す。</p>	<p>○学校の存廃と地域の発展衰退は、難しい問題です。しかし、義務教育施設である小学校が、子どもたちにとってよりよい教育環境となるように考えることが市教委の使命であると考えています。</p>	C
11	<p>○小規模校の方が行き届いた教育ができる。一人一人個性を伸ばし、友達同士助け合ってこそ社会性も育つのではないか。少人数で先生の目の届く指導は親にとって願ってもないこと。</p>	<p>○小規模校にはメリットもたくさんありますが、これを否定するものではありませんが、小規模化が更に進んだ場合、例えば複式学級になるとデメリットの方が多く出現する可能性も否定できず、これを危惧するものです。</p>	C
12	<p>○現在、各校とも耐震もでき、冷暖房も完備しているとの事。再編すると費用もかかると思う。</p>	<p>○南海・東南海地震などの発生率は30年以内に50%と予測されており、子どもたちの大切な生命を守るため耐震化工事を実施いたしました。また、ほとんどの学校は避難場所に指定されていますので、学校再編とは関係なく必要な工事であったと考えます。エアコンの設置につきましても、近年の猛暑に対応するもので、子どもたちの教育環境の向上に寄与したと考えています。耐震やエアコンは、再編後の施設の利活用の際にも有益であると考えます。</p>	C
13	<p>○生まれ育った地域の学校で学ぶことは、安心して元気に歩き、自転車を漕ぎ、肉体的、精神的にもとても大切な時間だと思う。学校は地域の拠点であり、子どもは地域の宝。 ○スクールバスでの登下校は、子どもにとって大変な負担になる。体力低下にもつながる。</p>	<p>○生活圈・経済圏が広域化した現代においては、生まれ育った「地域」も広域化しているという捉え方もあると考えます。徒歩で通学できる距離に学校がない場合、通学支援としてスクールバスを運行します。スクールバスを運行すれば何の問題もないとは申しませんが、地域の宝である子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えることが市教委の努めであると考えています。</p>	C

14	○競争の中で子どもたちは育たない。安心できる人間関係を築くことができず、孤独で自己肯定感を持ってない子どもになってしまう。	○学年としての活動が維持できないほど少人数になることは問題も多いと考えています。ある程度の人数の中で、切磋琢磨することが集団教育には必要であると考えますが、過度に競争を招くことを目指している訳ではありません。	C
15	○日本は、教育にもっと公費を使うべき。欧米諸国や韓国などと比べてかなり低くなっている。	○本市におきましては、県内でも早い段階で小中学校の耐震化率 100%達成や普通教室へのエアコン設置に取り組んできました。教育に集中的に公費を投入してきたことにご理解願います。	C
16	○自治会内に小学生は3人、中学生は2人。関心は少ないが、今現在生子どもの数が少ないので合併は必要でないかとの意見が多かった。	○参考意見として承ります。	C
17	○住民から要望のなかった学校再編を行うべきではない。	○住民発議は大事ですが、住民から要望がない事業でも、市が施策として取り組む場合があります。学校再編も子どもたちの教育環境を整えるために市教委が必要であると考え、計画素案を示したものです。	D
18	○学校の小規模化はデメリットばかりではない。小規模校の良さを生かした学校教育を創造していくという観点はないのか。学校再編以外の選択肢も示すべき。	○小規模化はデメリットばかりではないことは、そのとおりです。メリットも多く挙げられていますが、小規模化が更に進んだ場合、例えば複式学級になるとデメリットの方が多く出現する可能性も否定できず、これを危惧するものです。学校再編によらない小規模化解消の施策として、これまでも人口増などに取り組んでいますし、今後においても重要な施策の一つであると考えています。	C
19	○学校再編は子どもに大変な心理的不安を与える。友人関係、教師との関係、学校の文化の違いなど、新しい学校に慣れるまで長時間かかるものと思われる。今、必要なことは学校再編ではなく、小中学校を守り発展させることだと考える。	○新しい学校が開校する時に初めて顔を合わせるというのではなく、それまでに子どもたち同士がいろいろな機会を捉えてスポーツや文化事業などの事前交流学習を行うことにより、子どもや保護者の不安を払拭できるよう努めます。	C
20	○住民合意のない学校再編は、しないほしい。「合意」も一部の人の意見を聞いて「合意」しましたということのないように、どのようになったら「合意」なのかをはっきりさせてほしい。	○川田・美郷地区におきましては、小学校区ごとにPTA、就学前の保護者、地域住民への説明会をそれぞれ開催し、ご意見を頂きました。ほとんどのご意見が再編に肯定的であったことを踏まえて、PTAや保育所保護者会の代表者、学校長、保育所長、自治会連合会の代表者にお集まりいただき、川田・美郷地区の学校再編について早期に実施することにご理解を頂きました。	C

